

しんじひじ 真慈悲寺と阿弥陀如来坐像

銅造阿弥陀如来坐像背銘

敬白治磨 金銅影像 法躰弥陀 座光 (高) 三尺六寸

奉為皇帝 (後深草天皇) 日本主君 (將軍藤原頼嗣) 当国府君 (武藏守護・北条時頼) 地頭名主

御願円満 安穩太平 信心法王 子孫平安

悉地成就 師長父母 二親亡魂 助成合力

同共往生 乃至法界 平等利益 建長二年

大歳庚戌 孟夏之天 七日壬 (寅) 南閻浮堤

日本武州 多西吉富 **真慈悲寺** 施主源氏

願主仏子 慶祐敬白



百草八幡神社の境内にある奉安庫には、国指定重要文化財の銅造「阿弥陀如来坐像」が安置されています。この阿弥陀如来坐像は真慈悲寺の存在を示す重要な資料となっています。

背中の銘文から、この像は「源氏」(源氏出身の女性)が施主となり、建長2年(1250)に僧慶祐を願主として子孫の平安や亡くなった人の冥福を祈るために「日本武州多西吉富真慈悲寺」に造立されたことがわかります。

古社寺保存法により大正3年(1914)に国宝重要文化財に指定され、昭和25年(1950)に文化財保護法施行により国指定重要文化財となりました。毎年9月の例大祭には一般公開されます。

ここに金銅仏の姿の阿弥陀如来坐像を造立いたします。

天皇・將軍・武蔵の守護らの安穩を祈願すると共に、

その繁栄、夫の父母や実家の両親の菩提を弔い、

また造立者らの極樂往生など一切の恵みが平等に

与えられることを祈願いたします。

建長二年(一二五〇) 初夏

武蔵国多西郡吉富郷真慈悲寺

施主(造立者)源氏の女

願主仏子(僧)慶祐